

私の教育実践—「チーム郡中」の底力—

伊予市立郡中小学校 校長 紺田 順一

1 はじめに

本校は、伊予市の中心部に位置しており、児童数 1,000 名、学級数 35（内特別支援学級 4）の大規模校です。本年度、統合 74 年目を迎え、古くから伊予市、松前町、砥部町の 1 市 2 町で構成する伊予地区の中心校として各種の研究に取り組み、多くの成果



を上げてきました。校訓に「健康で明るい子」「勉強が好きで考える子」「行いが正しく親切な子」「力をあわせてがんばる子」を掲げ、知・徳・体の調和の取れた新しい時代をたくましく生きる郡中っ子の育成に取り組んでいます。

個人的な話で恐縮ですが、本校は私の母校であり、若年教員時代に 11 年間勤務させていただき、教員としての基盤形成や資質・能力の向上に大変お世話になった学校でもあります。そして、教員生活の締めくくりに校長として勤務させていただけたことに、感謝の気持ちで一杯です。

さて、本校は、令和元年度に「第 60 回全国学校体育研究大会愛媛大会」の研究指定を受け、体育科の研究主題を「仲間と関わり合いながら、主体的に学び続けることで、活力にあふれた愛顔いっぱいの子どもを育てる～表現運動・体づくり運動の授業づくりを通して～」と設定し、3 年間、「チーム郡中」で研究に取り組んできました。昨年度はプレ大会、本年度は本大会として全国から参加者を募って研究大会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。しかし、参加者を県内に限定したり、オンデマンド配信や誌上発表をしたりして、研究の成果を発信することができました。これもひとえに関係各位のご尽力のお陰と感謝すると同時に、手前味噌になりますが、コロナ禍でさまざまな制限があった中でも真摯に研究に取り組み、成果を上げた本校教職員「チーム郡中」の底力に敬意を表したいと思います。今回は、そのような「チーム郡中」で取り組んだ 3 年間の成果を簡単に紹介したいと思います。

2 第 60 回全国学校体育研究大会愛媛大会の取組の成果

(1) 主体的・対話的で深い学びを中核に据えた授業改善

体育科の運動領域の中で、児童だけでなく教師も苦手意識の高かった表現運動の授業改善に取り組むことで、表現運動に対する意識の変容が見られました。特に、体育が苦手と言っていた児童が、意欲的に表現運動に取り組む姿が多く見られるようになりました。また、児童間で「できるためのこつ」を共有し合うことが、共生の視点につながることも分かりました。さらに、「協働的な学び」の場面を学習展開の中に位置付けたことで、仲間と関わり合いながら共に伸びようとする態度が育ってきました。

(2) 「目標と指導と評価の一体化」を一層促す授業改善

授業の終末に「振り返りの時間」を位置付けたことで、教師自身に「目標と指導と評価の一体化」をより一層促すことができました。また、児童が評価カードに自己評価や相互評価を記録することで、一人一人が自分のめあてをしっかりとって授業に取り組むことができるようになりました。さらに、タブレット等の ICT 機器を活用することで、客観的な評価につなげることもできました。

(3) 「豊かなスポーツライフ」の継続

学校のオリジナル体操「郡中っ子体操」を開発し、体育の授業において楽しく心と体をほぐす準備体操として活用することができました。また、毎週 1 回朝の体幹運動の時間「郡中っ子パワーアップタイム」を設定し、手軽にできる運動を行ったことで、家庭においても実践しようとする児童が増えてきました。さらに、体育通信「いきいき」を定期的に発行することで、家庭への啓発も図ることができました。

3 おわりに

3 年間の研究で、多くの成果を上げることができました。その反面、課題も残りました。来年度は、学校体育指導力向上事業及び伊予地区教科等研究会（体育科）の会場校として、引き続き研究を続けていきます。今回の課題に対しても、「チーム郡中」の底力を発揮してしっかりと向き合っていきたいと思えます。そして、本校の取組が持続可能なものとして、多くの学校の授業改善の一助となれば幸いです。